

企業名：パーソルホールディングス

レポート名：統合報告書 2021

## 0. パーソルホールディングス社の概要

パーソルホールディングス（以下、パーソル）は日本にまだ人材派遣という概念が存在しなかった時に生まれてから、当時の新しい働き方として多くの人に新たなサービスを提供し、業界を牽引してきた。創業当時からヒトを起点に生み出してきた顧客接点や信頼をもとに、さまざまな事業ドメインで「はたらいて、笑おう。」の実現を目指して多くのサービスを展開している。

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

この統合報告書の中にはパーソルの企業としてのテーマである「はたらいて、笑おう。」というフレーズが何度も登場するため、パーソルが企業としてどのような姿を目指しているのかが強調されている。また、パーソルの CEO である和田氏のインタビューや代表取締役社長である高橋氏のインタビューでも「はたらいて、笑おう。」というテーマを軸に話が展開されていることから社内でも徹底したテーマ共有が行われていることが読み取れた。

また、ただ単に「はたらいて、笑おう。」というテーマを設定しているだけでなく、そのテーマ実現に向けた具体的な取り組みも提示されている部分も好印象だった。パーソルはテーマ実現のために3つの重点戦略を設定している。一つ目は個人にフォーカスし、働き方の多様な選択肢を提供、支援しながら働く個人の生涯に寄り添いながら機会を創出すること。2つ目はテクノロジーを武器にしてこれまで蓄積されたデータの分析を行なって未来の新たな事業創出に役立てること。そして最後に、日本独自のノウハウを活かして環太平洋地域を中心に存在しているさまざまな課題の解決に貢献することである。

以上のように、統合報告書内では企業が目指す「はたらいて、笑おう。」というテーマが非常にわかりやすい形で強調されている。また、企業として目指す姿の実現に向けての今後の取り組みなどについての記述もあるため、会社が目指す姿が実現可能なものであるという説得力を帯びていると感じた。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

統合報告書を読み進めていくうちに、この会社の競争優位性は日本初めて人材派遣を行った会社であるという事実と会社の歴史の長さであると考えた。この会社は創業以来業界のリーダーとしてトップを牽引しているということに対する顧客からの揺るがぬ

信頼が存在していると考えられる。また、多くの顧客を取り扱ってきた経験から情報量の蓄積が他社に比べて多くあるため、IT化によってこの情報を分析することで会社の事業拡大やマーケティングといった点で有利になっている。また、後述するようにパーソルでは人的資本の価値向上に力を入れているという点も企業としての競争優位性になりうると考える。パーソルの人的資本の価値向上はとても充実しており、従業員の満足度も高いと考えられる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

私はこの競争優位性には持続性がないと考える。パーソルが日本で初めて人材派遣を行った会社であるという事実は変えようがなく、パーソルに優位にはたらいていることは間違いない。しかし、現在はIT技術が格段に進歩しているため、情報量が少ない他の会社でもパーソルと同程度の水準の分析が行うことができるようになる日もそう遠くはないかもしれない。また、技術の革新によって台頭してきた会社にリーダーの座を奪われることがあれば、パーソルの競争優位性である信頼が大きく揺らいでしまう可能性もなきにしもあらずである。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

パーソル社では社員に対しても「はたらいて、笑おう。」というテーマを設定している。また、個々人の成長と組織の成長の相乗効果によってビジョンが実現すると会社は考えているので、会社としてのビジョンの実現のためにも個々人の成長は欠かせない。

例えば、パーソルは従業員のためにさまざまな学びの機会を提供している。社員の自己成長と自己実現に向けた多彩な学びのプログラムを展開しているほか、正社員のみならず派遣スタッフがスキルを向上し、キャリア形成を行うことができるような派遣スタッフ向けの研修を行なっている。

このような従業員の価値向上のための研修を手厚く行なってくれるような会社はそう多くない。この会社で働くことで自分自身の価値向上を達成できるのではないかと考える。

### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

パーソルの統合報告書は非常によく書かれているが、修正を加えればより良い報告書となるのではないかと感じた部分はいくつかあった。

まず一つ目は使われている語彙が専門的なもので、難易度が比較的高いことだ。もちろん、統合報告書を読むのは株主や就職を考えている学生たちがメインであるため、語彙の難易度が少し高いことは致し方ないことであるとも言える。しかし、より多くの人に興味・関心を持ってもらうためにも多少易しく言い換えみることを検討してみるのも良いのではないか。そのようにすることで、高校生のような専門的知識のないような人々にも読んでもらうことができるのではないか。

また、統合報告書内で使われている図の一部が複雑で視認性が悪いと感じた。例えば、p.9-10 の図は小さな字が多く読む気を削がれてしまうため、多少の変更を加えるべきなのではないか。

図1 統合報告書2021 パーソルグループ P.9-10

